

もう一度確認 教職員の熱中症対策

令和7年6月1日に改正労働安全衛生規則が施行され、**職場での熱中症対策の強化**(体制の整備・手順の作成・関係者への周知が義務付け)が求められています。子どもたちだけでなく、教職員の熱中症対策も大切です。職場とご自身の熱中症対策について、もう一度確認してみましょう。

熱中症による死亡は、ほとんどが「**初期症状の放置・対応の遅れ**」によるもの。従来の**熱中症予防対策**に加え、**熱中症のリスク者の早期発見**＋**発見したその場で、重症化を防ぐための状況に応じた迅速かつ適切な対応**が必要です。

見つける

判断する

対処する



熱中症対策強化の対象

「**WBGT28度以上**」または「**気温31度以上**」の環境下で、
「**連続1時間以上**」または「**1日4時間を超えて実施**」が見込まれる作業

注 活動の強度や状況によっては、**それ以下の気温・時間でも熱中症リスクが高まる**ことに注意した対応が必要です。

こんな場面ありませんか？

屋外行事の
準備・練習



体育など屋外授業の
準備・授業



放課後の活動



冷房の効きにくい
場所での活動



熱中症の予防

詳しくは、
「熱中症対策マニュアル(第5版)」P1～参照

高血圧や心臓病、糖尿病など、**持病のある方は熱中症のリスクが高くなります**。
各自でできる具体的な熱中症予防対策について、かかりつけ医に相談しましょう。

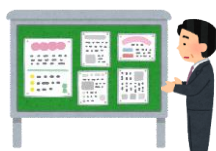


持病がなくても、**加齢による体の変化**や**その日の体調**(風邪気味、睡眠不足、二日酔い、夏バテ…)などによってもリスクが高まります。

熱中症対策(手順や連絡体制)を校内で共有

各校での共有方法の一例…

- ・朝礼やミーティングでの周知
- ・メール・チャット等での通知
- ・分かりやすい場所への掲示



早期発見・対処のために…

- ・活動前の体調チェック
- ・屋外活動・単独活動時は時間や場所を伝え、緊急時の対応を確認

